

令和4年度 学校自己評価システムシート(滑川町立滑川中学校)

目指す学校像	笑顔と幸せがあふれる滑川中学校
--------	-----------------

重点目標	1,基礎的な知識・技能の定着を図り生徒一人一人が力を付ける学習指導の充実 2,全教育活動における生徒理解を基盤とした組織的・系統的・積極的な生徒指導の推進 3,生徒・教職員の動きが地域社会に信頼感を生み出し、地域とともにある学校づくりの推進 4,自分を見つけた進路選択のための系統的なキャリア教育の推進
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校運営協議会にて、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	5名

学校自己評価						
年度目標			年度評価(1月23日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【学習指導の充実】 ・真面目な態度で授業へ積極的に取り組む生徒が多い。 ・県学調では、平均ポイントで大きく上回っているが、語句の習得で課題が見られる。 ・分からないことをそのままにしてしまう生徒もみられ、理解が不十分な生徒への効果的な手立てを講じる必要がある。 ・話し合い活動では、積極的に参加できる生徒が多い。しかし参加できない生徒もあり、その多くは学習課題の理解に不足があり、指導の工夫が必要である。	○基礎的な知識・技能の定着 ●学習指導力の向上 ①傾聴し学ぼうとする態度 ②話す・聞く活動への積極的な取組 ③指導力向上・授業改善 →分からない所が分かる指導 ④自ら調整して学習に取り組む	①学習状況調査の分析から指導方法の工夫改善をし、更なる学力向上と主体的な学びがある授業を推進する。 ②GIGA端末やICTを用いた指導方法の充実。 ③図書館教育の充実と不読率低下に向けた取組。 ④話し合い活動の充実に向けた指導方法の研究と実践。 ⑤特別支援教育に関する知識と理解を深め、日々の授業を実践。 ⑥小中連携、中高連携、一貫教育の推進を進め教育課程の一貫性ある実施について研究。 ⑦家庭学習・自主学習の方法の具体的な提示。	○新型コロナウイルス感染予防対応と新しい生活様式に基づいた取組による安心安全な教育課程の推進ができたか。 ①学校評価に係る保護者対象アンケートで、各項目で9割以上が好意的な評価をしたか。 ②教員評価で、授業力向上について9割以上が積極的に取組んだか。	・県学調では、平均ポイントを大きく上回っている。各教科で工夫し要点を抑えた授業が展開されている。引き続き、更なる効用に向けて工夫したい。 ・教師の側で意図的に聞く場面を設けた結果として、90%を超える生徒・保護者が、授業など人の話を聞くときは、先生や友達の話をよく聞き、考え、学ぼうとしていると回答している。 ・各生徒が自己の学習について調整しながら進める力が付くよう家庭学習への取り組み方を指導してきたが、家庭学習で、予習や授業の中で分からなかった内容の復習等をしている生徒が75%以上、保護者では58%となっており、取組に対する成果が見られた。	A
2	【生徒指導の推進】 ・落ち着いた学校生活を送ることができている。しかし、様々な要因で不登校となる生徒が増加している。 ・生徒を理解し、素早い対応や根気強い取組を組織的に推進し、自己有用感を高めながら対応する必要がある。 ・清掃指導の改善	○基本的生活習慣の定着 ●積極的な生徒理解のための取組 ①挨拶・ルール ②他の意見の尊重 ③清掃・美化活動の取組・協力 ④他者の尊重・信頼	①不登校0を目指した教育相談体制の充実と、生徒・保護者との信頼関係の構築 ②「時を守る」を基本とした基本的生活習慣の徹底。 ③報告・連絡・相談の徹底と職員間の情報共有と組織的指導 ④職員研修の充実と教育相談の手法の習得。 ⑤清掃指導の強化 ・具体的目標・自主的 ⑥職員間の連携(一貫した指導)	○新型コロナウイルス感染予防対応と新しい生活様式に基づいた取組による安心安全な教育課程の推進ができたか。 ①生徒・保護者アンケートで、挨拶・ルールが9割以上が好意的な評価をしたか ②不登校生徒の減少 ③職員評価で、9割以上が好意的な評価をしたか	・あいさつについては概ねの生徒が出来るようになってきているが、評価項目にある「進んで」という事を鑑みると、改善の余地がある。 ・多くの生徒が他者のことを考え、尊重する生活ができている。しかし、自分のことを優先する生徒も見られ、意識の改善を図る必要がある。 ・清掃については一生涯命に取り組む生徒が多いが、必要のない会話も多く見られ、取組について教師の意識をそろえる必要がある。 ・不登校については喫緊の課題であり、生徒指導・教育相談・SC・相談員等を中心に、全職員で連携して対応していく必要がある。	B
3	【地域とともにある学校づくり】 ・地域から一定の好意的評価を得ているが、地域行事の縮小により地域交流の機会が減少している。 ・学校からの情報発信は、学校だより、ホームページの適時更新で推進できた。 ・ひまわりの里づくり委員会、森林公園とのタイアップ事業、滑川ドリームプロジェクト等、新たな学習を通して地域連携を模索していく必要がある。	○生徒・教職員の地域学校協働活動への積極的な実践。 ●社会に信頼感を生み出し、地域とともに歩む学校づくりの推進。 ①ボランティア活動 ②地域で挨拶 ③学校の様子の発信 ④学習活動における地域連携	①地域人材を活用した教育活動の実践と地域教育力の向上 ②教育活動の地域への積極的な発信(広報活動の充実) ③教育活動の理解に向け、学校行事等の積極的な地域への公開 ④従来からの地域連携の場の減少に伴い、新たに学校を中心とした地域連携の場の提案をする。	○新型コロナウイルス感染予防対応と新しい新しい生活様式に基づいた取組により、安心安全な教育課程の推進ができたか。 ①保護者アンケートで9割以上が好意的な評価をしたか。 ②地域協働活動への積極的な関わり増加 ③地域人材の活用	・町や校内でのボランティア募集があると、応募数も多く生徒は積極的にボランティア活動に取り組もうとしている。しかし、案内や活動内容が保護者までは浸透していないことがあり、伝え方に課題がある。 ・様々な活動を行っているが、ボランティアをやっていると感じている生徒は60%に留まっている。ボランティアの意義や、ボランティアとは何なのかをしっかりと説明し、ボランティアに対する評価やフィードバックを明確にしていく必要がある。	A
4	【キャリア教育の推進】 ・9年間を見通したキャリア教育推進のため、キャリアパスポートを活用した指導の充実を図る必要がある。 ・生徒が将来の目標実現のための小・中・高連携、そして地域との連携は積極的に行われていると考える。しかし、生徒自ら自分の将来について考える事や保護者と話し合うことは十分とは言えないので、効果的な手法を研究する必要がある。	○自分で見つけた進路選択のための系統的なキャリア教育の推進。 ●9年間を見通し、キャリアパスポートを活用した教育計画の作成。 ①進路だより・面談での適切な情報発信 ②適切な進路学習 ③自分の将来について考察できる ④進路について家族と会話している	①今できる小・中・高等学校との連携を模索し、連携を図る。 ②各学年の進路学習で、新しい生活様式に基づいて発達段階に応じた効果的な活動を模索しキャリア教育を推進する ③今できる社会体験チャレンジ事業を通して、望ましい勤労観や職業観を持たせる。 ④キャリアパスポートの効果的活用を図る。(面談での活用など)	○新型コロナウイルス感染予防対応と新しい生活様式に基づいた取組により、安心安全な教育課程の推進ができた。 ①保護者アンケートで9割以上が好意的な評価をしたか。 ②キャリアパスポートを活用し9年間を見通した活動ができたか。 ③地域人材を積極的に活用し、教育力の向上を目指したか。	3年:地域の高等学校と連携して、出前授業を行った。生徒は主体的に取り組む、上級学校に興味を持つことができ、進路選択に役に立った。進路説明会でも高校の教諭を招聘し、進路を考え選択する機会を設けた。 2年:昨年度に引き続き、社会体験を実施することができた。企業にメニューや商品の企画をするなど、子どもが主体的に活動することができた。社会体験を踏まえて、自己分析や職業調べに取り組んでいく。 1年:町調べをする中で2年生でのキャリア教育を見据えて、社会体験で関わる企業について企業理念や滑川町で起業した理由等を調べた。	A

学校関係者評価		
実施日 令和5年3月20日		
学校関係者からの意見・要望・評価等		
<p>・話し合い活動の充実においては、意図的な授業展開や先生方の積極的な取組が結果につながっている。あわせて、滑川町の図書館やeライブラリーの活用等、本に親しむ活動や読書の推進も必要ではないか。 ・保護者対象アンケートで、各項目9割以上が好意的な評価をしたかという評価基準は高すぎるのではないか。評価指標として、8割くらいの設定でもよい。</p> <p>・目標とした取組が8割程度達成されたものと認める、概ね満足な取組であった。</p>		
<p>・不登校を0にすることは大変難しい課題であるが、学習支援室「つぼみ」、相談室、広域適応指導教室、フリースクール等の活用によって不登校生徒への個別の対応がされている。 ・高校入試の不登校選抜や進学に向けた情報を保護者へ周知することができると、進学や登校に対して選択が広がる。 ・教育相談に関する町の組織が新しくできることで、どういった機能や役割を果たすのか。</p>		
<p>・地域学校協働活動のような勉強だけでない活動が充実することによって、自分の得意なことやできること、生きる道を見つけることができる、とても大切な活動である。 ・数学検定の中高合同実施、文化財見学など、学校運営協議会で出た意見が実際の活動につながった。 ・ボランティアに参加している意識を高める必要がある。 ・NAMEプロでは作品のレベルがとても高く、素晴らしい。 ・ひまわりの里づくり活動を継続的にやっていってほしい。</p>		
<p>・キャリアパスポートを、9年間通して活用していくための具体的な方法を検討していく必要がある。高校へキャリアパスポートを提出することで得られる効果はあるのか。 ・夏休みの補習では、卒業生が講師となって学習支援を行っているのは素晴らしい。 ・NAMEプロによって、社会体験チャレンジが形を変えて実施され効果が得られている。</p>		